

令和4年度 事業報告



令和4年9月28日（水）
「国語科教育の充実
～マイスターの授業公開～」



令和4年9月27日（火）
「理科教育の充実
～マイスターの授業公開～」



令和4年7月29日（金）
「実技研修『書道指導』の充実」



令和4年8月25日（木）
「幼保小連携と協働」

《研究紀要等の発行》

	発 行 物	部 数	配 布 先
1	・令和5年度版 郷土読本「くしろ」	1 4 0 0	小学校 義務教育学校 (新3年児童)
2	・所報「釧路教育」 No. 311 No. 312 No. 313	3 0 0 2 8 0 2 8 0	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関等
3	・情報活用能力体系表【釧路市版第1版】	メール配信 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校

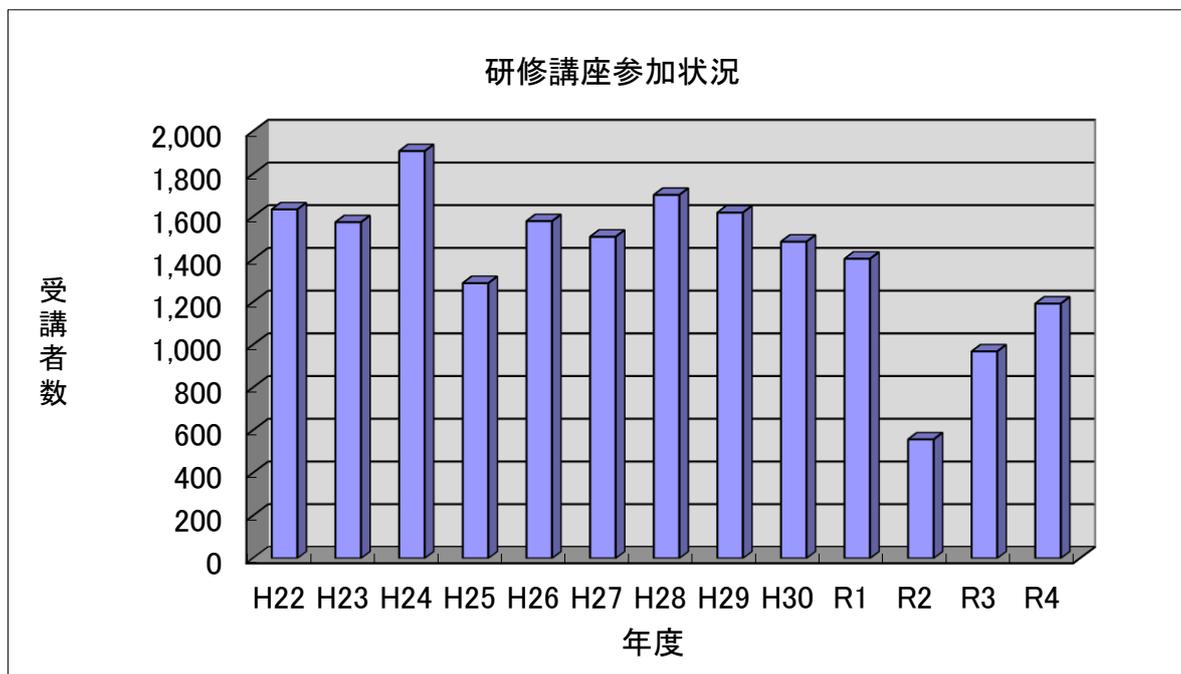
《研修講座参加状況》

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインと集合を併用しながら24講座を開講した。(令和3年度に開講した研修講座数は24講座)

※()は令和3年度受講者数。

	市内小中教職員	管内小中教職員	幼・高・一般等	合計
受講者数	1082(903)	62 (38)	49(28)	1193(969)

年度	受講者
H22	1,634
H23	1,574
H24	1,907
H25	1,289
H26	1,579
H27	1,506
H28	1,702
H29	1,619
H30	1,483
R1	1,403
R2	557
R3	969
R4	1,193



《市立小中教職員参加状況》 釧路市立小中学校教職員に対する受講者数の比率(%)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
受講者数	943	894	1,068	935	1,266	1,123	1,424	1,385	1,305	1,265	528	860	1,063
比率(%)	109.5	104.3	119.2	108.6	145.9	130.1	163.8	153.4	145.2	142.1	62.6	105.0	125.4

※R2は新型コロナウイルス感染症の影響により14講座のみ開講



釧路教育研究センター研修講座 参加人数（令和4年度実績）

番号	講座名	期日	会場	対象	参加人数
1	国語科教育の充実 ～マイスターの授業公開～	9月28日（水）	釧路市立芦野小学校	小・中・義・高	49
2	算数科教育の充実 ～マイスターの授業公開～	10月31日（月）	釧路市立昭和小学校	小・中・義・高	59
3	理科教育の充実 ～マイスターの授業公開～	9月27日（火）	釧路市立幣舞中学校	小・中・義・高	31
4	数学科教育の充実Ⅰ ～マイスターの～授業公開～	1月24日（火）	釧路市立春採中学校	小・中・義・高	24
5	数学科教育の充実Ⅱ ～マイスターの～授業公開～	11月30日（水）	釧路市立景雲中学校	小・中・義・高	22
6	道徳科教育の充実 ～マイスターの～授業公開～	10月5日（水）	釧路教育研究センター	小・中・義・高	65
7	外国語教育の充実	10月13日（木）	釧路市立朝陽小学校	小・中・義・高	68
8	体育科教育の充実	8月1日（木）	北海道教育大学釧路校体育館	幼・保・認・小・中・義・高	16
9	いじめ・不登校・児童虐待への対応 ～ケース対応・教育相談の充実～	8月3日（木）	釧路市生涯学習センター まなぼっと幣舞	幼・保・認・小・中・義・高	53
10	幼保小連携と協働	8月25日（木）	釧路市立清明小学校	幼・保・認・小・中・義	42
11	校内研修の充実	2月20日（月）	各学校（オンライン配信）	小・中・義 （研修担当教員対象）	40
12	釧路市の教育～採用2年目研修会～	7月8日（金）	釧路市立博物館	小・中・義 （採用2年目教員）	46
13	特別支援教育の充実Ⅰ ～コーディネーター研修会～	5月12日（水）	釧路教育研究センター	小・中・義	85
14	特別支援教育の充実Ⅱ	9月30日（金）	釧路教育研究センター	幼・保・認・小・中・義・高	41
15	多様な性の理解研修	10月6日（木）	釧路教育研究センター （オンライン同時配信）	幼・保・認・小・中・義・高	52
16	実技研修「書道指導」の充実	7月29日（金）	釧路市立芦野小学校	幼・保・認・小・中・義・高	32
17	エネルギー教育の充実	10月11日（火）	釧路市立愛国小学校	幼・保・認・小・中・義・高	24
18	公開研に行こう～青葉小学校～	10月27日（木）	釧路市立青葉小学校	幼・保・認・小・中・義・高	60
19	公開研に行こう～芦野小学校～	11月4日（金）	釧路市立芦野小学校	幼・保・認・小・中・義・高	79
20	公開研に行こう～北中学校～	10月21日（金）	釧路市立北中学校	幼・保・認・小・中・義・高	68
21	公開研に行こう～愛国小学校～	12月2日（金）	釧路市立愛国小学校	幼・保・認・小・中・義・高	75
22	公開研に行こう～昭和小学校～	11月25日（金）	釧路市立昭和小学校	幼・保・認・小・中・義・高	83
23	ミニ研修講座 一人一台端末活用の充実	9月15日（木）	釧路教育研究センター	小・中・義	27
24	ミニ研修講座 ことばが気になる子供の理解と支援	6月30日（木） 1月12日（木）	釧路教育研究センター	幼・保・認・小・中・義	52

【釧路教育研究センター 特別講演会】

講師・演題等	期日	会場	対象	参加人数
講師：高橋善之氏（秋田県大館市教育委員会教育長） 演題：『教育のイーハトーヴを求めて ～ふるさとキャリア教育が奏でる“学びの交響学”～』	令和4年 7月23日（土）	生涯学習センター まなぼっと大ホール	幼・保・認・小・中・ 義・高・一般	240

【釧路教育研究センター 教育講演会】

講師・演題等	期日	会場	対象	参加人数
講師：川島隆太氏（東北大学加齢医学研究所 所長） 演題：『脳を知り、脳を育み、脳を鍛える』	令和5年 2月4日（土）	生涯学習センター まなぼっと大ホール	幼・保・認・小・中・ 義・高・一般	313

《教育相談状況》

○月別・相談内容別 集計表

【面談：5 電話：24 メール：4 延件数：33件 ※継続件数：6】

内容 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1 学習・進路													0
2 特別支援			1				2						3
3 家庭教育					2								2
4 非行・問題行動													0
5 不登校	1	2 (1)	1	3 (1)	1	3	4 (2)		1		4 (1)		20
6 いじめ				1									1
7 学校生活	1		1										2
8 学校不信					1 (1)	1 (1)			1				3
9 部活動・同好会			1										1
10 その他													0
合計	2	2	4	4	4	4	6	0	2	0	4	0	32

※（ ）はメール相談内数

○校種別・内容別 集計表

内容 \ 校種	幼児	小学校	中学校	高校	大学	一般	不明	合計
学習・進路								0 0.0%
特別支援		3						3 9.4%
家庭教育			2					2 6.3%
非行・問題行動								0 0.0%
不登校			20 (5)					20 62.5%
いじめ		1						1 3.1%
学校生活		1	1					2 6.3%
学校不信			3 (2)					3 9.4%
部活動・同好会		1						1 3.1%
その他								0 0.0%
合計	0 0.0%	6 18.8%	26 81.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	32

継続相談を含むため、相談件数が問題発生件数を示しているわけではありません。

※（ ）はメール相談内数

◀ 釧路教育研究センター 施設利用状況 ▶

◇釧路市

利用目的・機関	回数	人数	備考
① 研修講座	17	734	
② グループリーダー研修	45	89	
③ グループメンバー研修	34	391	
④ 市教育委員会	78	2198	
⑤ 研究団体等	100	2573	
⑥ センター主催会議	4	84	
計	278	6069	

◇釧路教育局

利用目的	回数	人数	備考
① 研修講座・会議	8	179	

◇釧路管内・釧路教育研究所

利用目的	回数	人数	備考
① 研修講座	0	0	
② 釧研所員会議	8	184	
③ 事務局会議等	0	0	
④ 研究団体等	56	833	
計	64	1017	

●施設利用 総計

	回数	人数	備考
計	350	7265	

◀ 視聴覚機材及び教材の利用状況 ▶

◇機材

	29年度	30年度	R元年度	2年度	3年度	4年度
① 学校教育	94	85	76	113	123	154
② 社会教育	32	17	6	2	2	2
計	126	102	82	115	125	

◇教材

	29年度	30年度	R元年度	2年度	3年度	4年度
① 学校教育	27	26	6	3	2	2
② 社会教育	29	57	18	0	2	2
計	56	83	24	3	4	4
※ () はDVD及び16mmフィルム	(21)	(23)	(19)	(1)	(2)	(2)

【北海道通信 令和4年10月4日】

釧路市教委 1人1台端末活用へ

子を学びの主語にして

学習支援アプリ活用で講座

【釧路発】釧路市教委は

9月中旬、釧路教育研究センターでミニ研修講座「1人1台端末活用の充実」を開催した。市内小・中・義務教育学校から30人が参加。学習支援アプリを活用した授業実践の説明と演習を通して、1人1台端末を活用した実践的指導力の向上を図った。

講座は、釧路教育研究センター学習指導・開発研究グループ委員会が運営を担当した。学習指導・開発研究グループ委員会の本年度の重点内容「1人1台端末の活用による情報活用能力の育成」を示した上で、早

様々なアプリの活用について研修を深める受講者



端末活用の充実に関して説明した。

情報活用能力について確認したあと、教師はもちろん、大切なのは児童生徒が活用できることであると強調。活動の主語は子どもであるとした。

受講者は子どもの立場となって①グループシャムボードを用いて課題設定②グループスライドを用いて言語活動の演習に臨んだ。

川将光研究グループリーダー（曇雲中学校）と松永悠佑研究グループ委員（桜が丘中学校）が、1人1台

た。それぞれ授業の中での活用について実践例を示しながら解説した。受講者は

学習支援アプリを活用しながら、児童生徒が学びの主語となるよう研修を深めていた。

受講者からは「様々なアプリを活用して効率の良い学習環境につなげていきたい」「校内のICT研修に

還元したい」などといった声が上がった。

市教委の佐藤美里指導主事は「1人1台端末の活用で大切なのは子どもが活用できること。子どもが学びの主語となるような学習支援アプリの活用につなぐべし」と期待を寄せた。

①は中村萌子研究グループ委員（中央小学校）、②は岡本恵和研究グループ委員（春採中学校）が担当し

【北海道通信 令和4年10月14日】

釧路市教委 芦野小で国語研修講座

作品世界に迫る授業

6年「やまなし」題材に

【釧路市】釧路市教委は9月下旬、釧路市立芦野小学校(高部忠之校長)で研修講座「国語科教育の充実」マスタースターの授業公開を開催した。市内や管内の小・中学校、義務教育学校から50人が参加。本年度選出された授業マスタースターによる授業公開や研究協議を通して、国語科における課題について把握し、今求められる授業の在り方について研修を深めた。



授業公開に臨む授業マスタースターの谷口教諭

授業マスタースター6人による学び方カリキュラムデザイン研修講座(授業公開)は、6講座あり、中の授業方向が重要とした上で、「言葉による読み方・考え方」が働く(初任段階教員対象にも本公開)と合わせ、教員全体の指導方向と歩目的に開

「十二月」の場面を比べて読み、「やまなし」という題名の意味について考えることができる」と設定し

用に関して「活用と共有を意図的に行うことで、学習意欲の維持につながった」との声も聞かれた。

はじめに、市教委の関本裕介指導主事が、国語科における授業改善のポイントについて、企画学力・学習状況調査の分析結果をもとに説明。

「五月」と「十二月」を比較するため、「念話」情景「オノマトペ」を受ける印象「が対比できる表を板書。視覚にも訴えるよう、教科書の挿絵も掲示した。子どもたちは「やまなし」と「かわせみ」に関する記述を中心に考え、意見を交換。「かわせみ」が2つの場面に登場していることをそれぞれ場面から受

「自由」考えが持てるように、子どもに委ねる場面の工夫が見られた」といった意見や、ロイノートを活用した

単元は「作品の世界をとらえ、自分の考えを述べ、教材は宮沢賢治の『やまなし』。1時間授業の6時間目。本時の目標を「五月」と

ける印象について話している。こころ「かわせみ」と「やまなし」の関係にも着目した。五月の幻想の価値について「やまなし」が出てくる幸せな描写があるから必要ないという意見も、死や恐怖の描写があることで「やまなし」のありがたさが強調されるという考えが出されるなど、作者の思いに深く迫る話し合いを展開した。

題名の意味については「宮沢賢治の人生を表している」「やまなしは賢治の理想。互いに心が通う平和な世界を描いているので

はといった意見が出るなど、子どもたちも「やまなし」を通して「宮沢賢治の世界」に触れた。

研究協議では、本時の目標に迫るための教師の手立て、教師の子どもたちとの関わり方、「読むこと」領域の学習における資力・能力の高まりをどう見取るか、評価の在り方への2点を柱に11グループで討議。

参加者からは「今までの学習がなくなっていた」「自由」考えが持てるように、子どもに委ねる場面の工夫が見られた」といった意見や、ロイノートを活用した

【北海道通信 令和5年2月9日】

釧路市教委 4年度教育講演会

スマホが脳の発達阻害

東北大加齢医学研・川島氏

【釧路発】釧路市教委は4日、釧路市生涯学習センターで4年度教育講演会を開催した。東北大加齢医学研究所長センター長の川島隆太教授が、脳科学に関する最新の知見をもとに、脳の鍛え方などを解説し「スマホが子どもの脳の発達を阻害していることや、読書が想像力を伸ばす源泉となることを分かりやすく紹介したほか、ICTにまみれた生活環境における子どもたちの集中力低下を懸念するなど、GIGAスクール構想の在り方に二石を投じた。

講演会には300人を超える参加者が詰めかけた。講師の川島所長は任天堂スィッチ「脳トレ」の開発に携わるなど、脳科学研究の最前線で活躍。「脳を知り、脳を育み、脳を鍛える」と題して話を進めた。川島、川島所長はヒトの脳の前頭前野の機能について、

講演会には300人を超えて解説。ヒトの思考や心をつかさどる機能があり、子どもの脳に関してはセロトニンから就学期前の5歳までの期間に発達すること、さらに思春期以降、大学生までの間に爆発的に発達し、ヒトは自身の力で自身の脳を発達させる機会があること

川島所長は「いかにして思考の脳、心の脳を働かせるか。ヒトとヒトが共感しシンクロする脳のネットワークが大切。教育の場でのリモートは最悪。リモートでは心と心のつながりは成立しない」とし、積極的なコミュニケーションを意図した活動の重要性を強調



川島隆太氏

「スマホを使用している時の前頭前野の活動は止まらなくなった。脳を鍛えるためには、対面でのコミュニケーションが必須とし、スマートフォンが子どもの脳の発達を阻害していることを強調。スマホを使用している

と学力が低下することが、多くの研究結果で明らかになっているとした。また、同様の傾向は成人にも当てはまり、大学生を対象とした研究においても、脳の老化が始まっているとした。

さらに「GIGAスクール構想に二石を投じる」とし、ICT化の進展でヒトの注意力、集中力が極端に低下していることを紹介。「子どもたちの集中力の低下は極めて深刻」とした。最新の研究結果から、GIGAスクール構想においては、グループ学習は成績には影響がなく、個別学習はやるだけ成績が下がることと分かってきたと説明。「問題をタブレットで行うことは悪手。安全な使い方としてはグループ学習にと

まっている。脳が寝てしまっている状態」とし、スマホやインターネットの利用時間が長いほど、読書が想像力の源泉」と読書の重要性を強調。「読書は子どもの脳を守ることでできる。脳発達を促進し、AIに勝つ力を養うことができる」とし、デジタルコンテンツの影響と読書の効用が、多くの研究データで示されているとした。

最後に川島所長は「読書は想像力の源泉」と読書の重要性を強調。「読書は子どもの脳を守ることでできる。脳発達を促進し、AIに勝つ力を養うことができる」とし、デジタルコンテンツの影響と読書の効用が、多くの研究データで示されているとした。

【釧路新聞 令和5年2月11日】

スマホ脳に悪影響

教育講演会 東北大の川島教授訴え

釧路市教育委員会主催の教育講演会が4日、市生涯学習センター大ホールで開かれた。対面での講演会は3年ぶり。講師は脳機能研究の第一人者、東北大学教授で加齢医学研究所長の川島隆太氏。釧路管内の教職員、教育関係者ら約300人が集まり、脳の発達を阻害するスマートフォンのほか、教育現場で活用されているデジタル教材の影響などについて理解を深めた。

(石川直樹)

釧路

川島教授は千歳市出身だが両親が釧路市出身。冒頭のあいさつでは川北町にあった家での思い出などを懐かしそうに語った。講演では、自身が子供たちを対象に調査した研究成果の中から、特にスマホやタブレットを利用した学習が、脳の発達に悪影響を及ぼすデータの数を提示。「スマホを利用している時の脳の働きのほ、何もしていない時の状態と一緒で全く働いていない」とスマホの悪影響を強調した。

また、スマホを使う時間が長い生徒ほど成績が悪くなる調査結果を示し、その理由として「スマホは人間の集中力や注意力をそく効果が大きい。スマホを使う時間が長いほど脳の発達が阻害される。こうした研究論文は山のように出てい



スマホが脳に与える悪影響などを訴えた川島教授

を鍛える

現在、日本の教育現場でも利用されているタブレットについて、グループ学習以外の利用では子供たちの脳の発達を止めてしまう危険性があると警鐘を鳴らし

た。その上で、最も子供の脳の発達や学習成果が上がるものとして読書の有効性を指摘。「釧路では読書活動を推奨していると聞けが、すばらしい取り組み。読書には創造力を伸ばす研究データもあり、脳思考向上には読書が一番」と語るとともに、「スマホは子供の脳の発達を阻害する強い力があることを、家庭や地域で考えてみてくださ」と呼び掛けた。

【北海道通信 令和5年3月2日】

釧路市教委 合同研究G研修・報告会 成果や課題を確認 学習指導など3グループ

【釧路発】釧路市教委は2月16日、釧路教育研究センターで4年度第2回合同研究グループ委員研修会兼研究成果報告会を実施した。本年度からより具体的な課題解決に向け、研究グループを3グループに再編。「学習指導・開発研究」「子ども支援」「郷土読本・地域学習」とし、再編後初となる報告会で成果や課題について報告を行った。

報告会には、各研究グループ委員や市教委関係者ら28人が出席したほか、市内小・中学校、義務教育学校から約40人がリモートで参加。本年度の研究成果報告などを参考に、教育課題解決に向けた教育実践への活用について研修を深めた。

はじめに、岡部義孝教育長があいさつ。委員への感謝の意を示した上で「課題

解決に向けた具体的取組が各学校で有効に活用されるよう積極的に発信してほしい」と、3グループの活動報告に期待を寄せた。

まず、学習指導・開発研究グループが「人工知能の活用による情報活用能力の育成」をテーマに報告。「情報活用能力」について確認したあと、主な活動について説明した。ロイ

グルシャムボード等のアプリを活用した授業実践、ICT機器の活用方法をより良くするための講座開設などを報告。また「情報活用能力」の育成指標を、より明確・簡潔にするため、文部科学省の「体系表」などを整理。児童生徒の実態に合わせ、修正・改善を加えた「釧路市版体系表」を作成し、根拠を明確にして、課題解決に役立つ情報を選

ぶことができるとした。子ども支援研究グループは「不登校児童生徒に対する日常の支援の在り方」をテーマに発表。各校の不登校児童生徒の実態を示したあと、不登校の未然防止・早期対応・長期対応の視点から、学校担任が意識するべきこととして①授業の学級経営②情報共有③保護者との連携の4点を提示。

郷土読本・地域学習研究グループは「自己決定の場を提供し、意識した授業について示した。郷土読本・地域学習研究グループはテーマ本年度の活動報告およびロイロノート資料箱の紹介を発表。ロイロノート資料箱の使い方を確認したあと、ロイロノートを活用した市の歩みを写真で紹介。釧路および北海道のまちづくり



研究グループ委員は成果や課題を報告した。授業や学級経営、情報共有や保護者との連携における各校の実践例を紹介した。

が、時代と共に移り変わる様子を、写真を並べることで比較しやすくなること、絵カードの作成や言葉の変更や追加、テーマの更新も可能になることなどを説明。社会科や総合的な学習の時間などでも使える動画教材の紹介や小テスト・プリントの作成など「ロイロノート資料箱」の有効活用を呼びかけた。

参加者からは「情報活用能力の基本的な部分をあらためて考えるとともに、子どもたちとの共有が大切である」と感じた。「ロイロノート資料箱は、低学年でも活用ができ、様々な場面での有効活用に向けた実践に生かしたいといった声が上がった。

- ▼学習指導・開発研究グループ
 - ◎早川将光教諭（豊雲中）
 - ▼中村萌子教諭（中央小）
 - ▼尾形加奈子教諭（芦野小）
 - ▼岡本憲和教諭（春採中）
 - ▼松永悠佑教諭（桜が丘中）
 - ▼子ども支援研究グループ
 - ◎大場公博主幹教諭（昭和少）
 - ▼石原明香教諭（青葉小）
 - ▼柴田浩子教諭（東雲小）
 - ▼三守純子教諭（新陽小）
 - ▼齋藤政人教諭（鶯舞中）
 - ▼竹岡良太教諭（豊雲中）
 - ▼高橋田教諭（鳥取西中）
 - ▼郷土読本・地域学習研究グループ
 - ◎北岡知樹教諭（大桑毛小）
 - ▼藤井健史教諭（城山小）
 - ▼目黒翔子教諭（鳥取小）
 - ▼坂本優一教諭（美原小）
 - ▼磯部香里教諭（興津小）